

ISSN 1342-3193

IAE-NL-2002 No.20



Institute of Advanced Energy Kyoto University

November 2002

NEWS LETTER

21世紀COEプログラム
宇治キャンパス公開2002
第28回リニアック研究会
第1回産学連携シンポジウム
理工会について
人事異動
学生受入状況
外国人来訪者の状況
海外渡航
各種研究費の受け入れ状況
各種講演会の開催状況
京都大学エネルギー工学研究所教官公募
研究所組織系統図
研究所出版物一覧
附属エネルギー複合機構研究センター便り

京都大学エネルギー工学研究所

当所が21世紀COEプログラムに採択される

この度、エネルギー理工学研究所とエネルギー科学研究科が宙空電波科学研究センターの宇宙太陽光発電グループとともに提案していた『環境調和型エネルギーの研究教育拠点』計画(笠原三紀夫リーダー)が、今年度の文部科学省の21世紀COEプログラム(トップ30)の一つとして採択された。

本計画は、京都議定書の要請にこたえ、持続可能な社会を実現していくために必要な、環境調和型エネルギーシステムの実現を目指して、①太陽エネルギー、②水素エネルギー、③バイオエネルギー技術を確立するとともに、④環境調和型トータルエネルギー評価手法の開発を拠点研究事業の柱としている。

一方、拠点教育事業としては、①国際カリキュラムの導入と、②国内外エネルギー研究機関との連携、及び、③地域社会のニーズを的確に把握し国際的リーダーシップを発揮できる人材の要請を図るために、英語教科書シリーズの発刊を通じてエネルギー科学の体系化を図るとともに、博士研究員、研究助手、教育助手などの制度を充実し、わが国唯一のエネルギー科学関連の大学院としての国際拠点化を目標とする。

また、本COE事業を推進するための組織として『国際環境調和型エネルギー情報センター』を設立し、国際エネルギー共同事業により、海外拠点形成を図り、エネルギーに関連した情報を収集し、政策提言として情報発信していくと共に、産学官連携事業により、研究成果の速やかな産業技術化を促進する体制を整備し、拠点事業後も恒常的な組織として残すことを目標としている。

このように、大きな事業を5年間で実現していくために、笠原拠点リーダーを中心とする9名の推進委員と、全研究科、研究所が一体となった推進が求められており、皆様のご支援、ご協力を切に期待するものである。

そもそも本プログラムは大学のランク付けを固定化するものとの批判から、メディア的には本来の意味が十分理解されているものとは言いがたいが、独法化を控え、各大学の特徴づけと強化を狙ったものとして、当所としても是非採択されるべく努力してきたところである。

今回は、全国からの465課題の提案のうち、学際複合新領域145提案の中から24課題が選ばれるという激戦であったが、特にエネルギー科学分野では4課題が採択されたといわれている。中でも、当所の提案は、エネルギー材料や海洋エネルギーなどの他の提案に比べ、広範且つ充実したものとなっている。

本提案は、京都大学で採択された11の課題の中では3.23億円と、二位のバイオの2.2億円を大きく引き離し、突出した予算配分を受けており、高い評価を受けたが、学内でも激戦で、4月の「エネ科との統合」7月月初の総長ヒアリングによる「課題の絞り込み」、その後の「宙空センターとの統合」などの変遷はあったものの大きなポイントでは研究所会議での合意形成を図りつつ進められてきた。これまでの皆様のご協力に感謝すると共に、今後、これを機会に、当所がエネルギー分野で拠点形成ができるよう、ご支援ご協力をお願いします。

(エネルギー利用過程部門・分子集合体設計分野 教授 吉川 暹)

宇治キャンパス公開 2002

宇治キャンパス公開は、宇治キャンパス内の研究所、研究センター、ならびに、研究科などの部局で活動する約 1,400 名の教職員と大学院生を主体とする学生の日頃の活動内容を内外に広く知っていただくことを目的として 97 年度から開催されています。本年度は 9 月 28 日（土）に講演会、パネル展示、公開ラボなどが行われました。

本年度は 9 月に開催されましたが、あいにくの天候にもかかわらず 400 名を超える多くの方々にお越しいただきました。ご協力をいただいた研究室の皆様にご礼申し上げます。

(エネルギー利用過程部門・分子集合体設計分野 足立基齊)

公開講演会 (10:00-15:30)

本年の講演会は、「人類の豊かな未来のために ―ナノからグローバルへ―」をテーマに、化学研究所共同研究棟大セミナー室において、以下のテーマで行われました。

10:00～11:00	「食から見た安定共生系あれこれ」	農学研究科・教授 北 晶 直 文
11:00～12:00	「制御って何？」	情報学研究科・教授 杉 江 俊 治
13:30～15:30	「ナノテクノ宝庫・高分子化学」	化学研究所・教授 福 田 猛

(福田先生のご講演は、宇治市生涯学習センター主催の「宇治市民大学」とリンク)



(写真上) 公開講演会と正門のアーチ (左上)



(写真上) パネル展示会

パネル展示会 (9:30-16:30)

化学研究所共同研究棟にて、各研究所、研究センター、研究科がパネル展示による研究内容紹介を行いました。本年度も創意工夫をこらした展示がなされました。

公開ラボ

4研究所、2センター、4研究科において、24の企画が催されました。当研究所では、ヘリオトロンJ、DuET、慣性静電核融合、太陽光発電、自由電子レーザーの5つの装置が9月28日(土)に一般公開されました。



懇親会

9月27日(金)には、パネル展示の学内向け公開が行われ、夕刻、17:30-19:30に懇親会が催されました。宇治地区の教職員・学生など約400名が参加しました。

第28回リニアック技術研究会

リニアック技術研究会は、電子、陽子、重イオン用加速器であるリニアックに関する研究会であり、年1回開催されるもので、その歴史は古い。研究会の趣旨は、リニアックに関する科学的な側面のみでなく、運転・維持に必要な技術的な側面、及びリニアックの利用に関しても幅広く発表、議論を行うというものである。

今回は、本学のエネルギー理工学研究所と化学研究所の共催で、京都駅南側の京都テルサにて、8月7日～8月9日の3日間開催された。今回の参加者総数は約270名であり、このような大きな会議を我々のような小人数の集団で主催することが可能であるかどうか、非常に不安が大きく、実際多少の不手際はあったが、職員、学生一丸となって働いた結果、何とか無事乗り越えることができたことには、満足している。

この研究会は、8月の猛暑の中で行われたが、参加者の多くが大学関係者であるために夏休みを利用する必要があること、宿の確保を考えると祇園祭や五山の送り火の周辺を避ける必要があること、そしてもちろん会場の都合があるためであった。猛暑にもめげず京都観光に勤しむ参加者も多少見られたが、観光に出かける人は却って少なく、白熱した議論が繰り広げられた。

会議では口頭発表とポスター発表とがあったが、この会の伝統としてパラレルセッションは避けた。ポスターセッションは、その形式が最初に採用された当時は比較的軽く見られていたが、最近では口頭発表の時よりもじっくりと議論なされるので、むしろこちらを希望する参加者が増加する傾向が見られる。

研究会では企業展示も催され、関係する11社に出展を頂いた。例年は別に展示室を設けていたが、今回は会場のホワイエが広がったので、そこを利用することにした。多少狭いことが気になったが、却って見学の人数が集り、好評であった。出展企業にとっては、単なる宣伝には止まらず、加速器の専門家から新しいアイデアや苦情を蒐集する場となる。

2日目の夕方には懇親会が同じ会場で開催された。この会場はハイテク仕様であり、会場の椅子が瞬く間に機械仕掛けで倒され、段差もあつという間になくなり、宴会場に変身する。多くの参加者がその仕掛けに見とれていた。この会場は大体において好評であった。懇親会ではエネルギー理工学研究所、化学研究所の両所長に最初の挨拶を頂き、その後は和やかに進められたが、本来のセッションでの議論に飽き足りない方々が、アルコールを片手に議論を続けているのが何箇所かで見られた。

最終日の午後には、バスにて移動して、宇治キャンパスの2研究設備と大阪大学産業科学研究所の施設において見学会が行われた。

会議のサーキュラーは、特別にホームページを準備して、新しいサーキュラーが準備できた場合、原則としてe-mailにて予想参加者に周知すると共に、重要な事項はe-mailにも書き込むことにした。このmailing listは、毎年追加・修正の上次回の主催者に引継がれている。会議のプロシーディングズは、WORDファイルあるいはPDFファイル、および印刷したものの双方を集め、当方で全てPDFファイルにして印刷した。印刷した原稿をお願いしたのは、機種の違いによる思わぬ変化をチェックするためである。特に大先生方の原稿の遅れもあったが、プロシーディングズは会議開始の前日に辛うじて完成した。

会議自体は終了したが、会計の締め、プロシーディングズの電子化出版の作業が主なものとして残っており、これから残務整理にかかるので、もう一頑張りが必要である。

この会を主催するに当っては、当研究所、化学研究所の皆様にご支援頂いた。そして、特に多大な労力を注いで頂いたスタッフ・メンバー、非常勤職員、大学院生の皆様に心から感謝する次第である。

山崎 鉄夫 (量子放射エネルギー研究分野・教授)

第1回産学連携シンポジウム

平成14年9月18日、午後1時～5時、京都テルサ大会議室において、エネルギー科学研究科と当研究所の主催および国際融合創造センターの共催によって、産学連携シンポジウムが開催された。シンポジウムは以下の要領で行われ、産業界より約200名の参加を得て、活発な交換が交わされた。第一回目としては大成功であり、継続の重要性を確認した。

牧野 圭祐 (生体エネルギー研究分野・教授)

プログラム

第一部：講演

- 13:00 ご挨拶 笠原三紀夫 (エネルギー科学研究科長)
- 13:10 講演 I 「京都大学の将来」西本清一総長補佐 (長尾真京都大学総長代)
- 13:25 講演 II 「産学連携への期待」森 詳介 (関西電力株式会社代表取締役副社長)
- 13:40 講演 III 「京都大学が取り組む産学融合」松重 和美 (国際融合創造センター長)
- 13:55 ご挨拶 吉川 潔 (エネルギー理工学研究所長)

第二部：シーズプレゼンテーション

14:15-15:35 口頭発表 20 件 (各4分)

- 鈴木亮輔 「酸化物のカルシウム熱還元・副生成物電解再生型連続製錬」
- 坂 志朗 「環境浄化型 TiO₂ 複合炭素材料」
- 坂 志朗 「超臨界水によるバイオマス利用」
- 坂 志朗 「超臨界メタノールによる廃食油からのバイオディーゼル燃料の創製」
- 野平俊之 「熔融塩電解を用いた新規なアンモニア合成法」
- 後藤琢也 「ガスイオン化電極を用いる新規な低温窒化法」
- 萩原理加 「高い導電率を有する室温熔融塩」
- 野澤 博 「不揮発性メモリ技術のロジック応用」
- 足立基齊 「単独及び複合セラミックナノチューブの創製と機能」
- 足立基齊 「2次元平面を被う電気伝導貴金属ナノワイヤー」
- 東野 達 「微粒子の製造・計測と生産活動に伴う環境負荷の評価」
- 近藤克己 「プラズマからの輻射測定に関する研究」
- 増田 開 「可搬性・制御性の高い放電型核融合中性子源」
- 今谷勝次 「構造材料の非弾性変形モデルとその構造解析と加工プロセス解析への適用」
- 川那辺 洋 「レーザー散乱光画像による流れの可視化」
- 松本英治 「高分子圧電フィルムを用いた欠陥の非破壊評価」

- 浜口智志 「プラズマ材料プロセスシミュレーション」
- 牧野圭祐 「白血球機能強化薬剤6-β-フォルミルプテリン」
- 八尾 健 「レジストパターン転写による水溶液合成セラミックス誘電体薄膜のナノパターンング」
- 石原慶一 「繰り返し圧縮延法による高機能ナノ材料の創製」
- 香山 晃 「革新的な超耐熱セラミックス複合材料プロセスの開発」
- 香山 晃 「耐環境性鉄鋼材料の開発」
- 香山 晃 「材料開発・解析・評価へのマルチビーム応用 (DuET 施設)」

15:35-17:00 上記発表内容の詳細をポスター展示発表および産業界とのコンタクト



挨拶される吉川所長

理工会について

エネルギー理工学研究所懇親会「理工会」の平成14年度前期活動について簡単に報告します。

1. 会費の改定

6月度研究所会議の後に時間をいただき、総会を開催して会費を改定しました。夏のビアパーティーなどの行事費が増えてきたことなどで、単年度決算が赤字であり、前身の「工研会」より引き継いだ財産も少なくなってきたことから、単年度収支がバランスするように改訂しました。従来は、一律400円でしたが、教授・助教授の方々に多く負担していただくとともに、要望のありました時間雇用職員の会費を減額しました。

2. 理工会ビアパーティーの開催

7月12日（金）5時15分より、理工会主催のビアパーティーを生協会館2階ピアチで開催しました。昨年に引き続き、研究所関係者の懇親をはかるために、本研究所所属の学生の参加を企画し、全体で約80名の参加があり、天候にも恵まれたことから、陽が落ちたあとはベランダで飲む方も多かったようで、概ね好評であったと思っています。

(理工会幹事 原子エネルギー研究分野 山本 靖)

人事異動

発令年月日 または 受入期間	氏名	異動 内容	所属・身分	旧(現)所属・職名等
14.10.1	坂本清志	転任	東京大学生産技術研究所 助手	エネルギー利用過程研究部門 分子集合体設計研究分野 助手
14.7.1 ～ 14.9.30	Nikolai Vinokurov	契約	エネルギー生成研究部門 先進エネルギー評価研究分野 (外国人客員) 教授	ブドカ核物理学研究所 (ロシア) 研究部リーダー

学生受入状況

H14. 10. 1 現在

研究科	M1	M2	D1	D2	D3	総数
エネルギー科学研究科	26	27	13	7	5	78

外国人来訪者の状況

来訪年月日	氏名	所属機関・職名
14.7.31～14.8.1	Yong Seok Hwang	ソウル国立大学工学部原子力工学科：教授 (大韓民国)
14.8.21	A.D. Rollett	Materials Science & Engineering Carnegie Mellon University：教授 (アメリカ)
14.9.6	Ulf Rosengard	IAEA (国際原子力機関)：研究員 (オーストリア)
14.9.11	S.L. Chin	Laval University: 教授 (カナダ)
14.9.11	D. Normand	CEA Saclay: 教授 (フランス)

海外渡航 (日本学術振興会 日韓拠点大学方式学術交流事業)

氏名	渡航目的 (研究課題番号)	期間
香山 晃	(CR-02-2-8)	14.5.27～14.5.29
加藤雄大	(CR-02-2-8)	14.5.27～14.5.29
香山 晃	(CR-02-2-8)	14.7.22～14.7.25
神保光一	(CR-02-2-8)	14.7.22～14.7.26
木村晃彦	(CR-02-2-1)	14.9.1～14.9.4
笠田竜太	(CR-02-2-1)	14.9.1～14.9.4

海外渡航

氏名	渡航目的	目的国	渡航期間	備考
笠田竜太	A S T M国際会議出席および研究発表	アメリカ	14. 6. 17～14. 6. 27	科学研究費 委任経理金
木村晃彦	A S T M国際会議出席および研究発表	アメリカ	14. 6. 16～14. 6. 23	受託研究費
加藤雄大	核融合用先進 SiC/SiC 複合材料の基礎特性及び熱・機械特性評価	アメリカ	14. 6. 26～14. 8. 24	日本学術振興会
森下和功	国際会議 (Cosires2002) 出席および研究発表 フォルシュングスツウェントラム ローゼンドルフ 研究所視察および資料収集のため	大韓民国 ドイツ	14. 6. 22～14. 7. 2	委任経理金
香山 晃	第7回先進エネルギー材料・核分裂/核融合炉工学 に関する日中シンポジウム講演及び共同研究実施	中華人民 共和国	14. 7. 27～14. 8. 4	日本学術振興会
木村晃彦	核融合炉用低放射化構造材料に関する 日中シンポジウムに出席のため	中華人民 共和国	14. 7. 28～14. 8. 3	委任経理金
作花哲夫	国際電気化学会出席及び液体界面分光 に関する情報収集	ドイツ	14. 9. 11～14. 9. 22	科学研究費
香山 晃	CIMS サマーセミナー参加及びSiC/SiC複合材料に関 する共同研究打ち合わせ	アメリカ	14. 8. 8～14. 8. 21	科学技術振興事業団
香山 晃	ステンレス鋼の照射脆化・ヘリウム脆化 と格子間不純物の影響についての指導 研究実施	大韓民国	14. 9. 11～14. 9. 14	日本学術振興会
佐川 尚	分子鋳型高分子に関する国際ワークシ ョップ出席及び研究成果発表	フランス	14. 9. 15～14. 9. 21	科学研究費
増田 開	自由電子レーザー会議出席及び研究成 果発表	アメリカ	14. 9. 7～14. 9. 16	科学研究費
吉川 暹	三菱電機大連機器有限公司、北京大学、 中国科学技術協会の視察、研究調査及び 懇談	中華人民 共和国	14. 9. 4～14. 9. 8	委任経理金
大垣英明	自由電子レーザー会議出席及び調査、資 料収集	アメリカ	14. 9. 8～14. 9. 15	産学連携等研究費
山崎鉄夫	自由電子レーザー会議出席及び調査、資 料収集	アメリカ	14. 9. 8～14. 9. 15	産学連携等研究費

紀井俊輝	自由電子レーザー会議出席及び調査、資料収集	アメリカ	14.9.8～14.9.15	京都大学教育研究振興 団助成金
森井 孝	ヌクレオンド・ヌクレオチド核酸会議出席及び成果発表と情報収集	ベルギー	14.9.9～14.9.16	科学技術事業団

各研究費の受け入れ状況

文部省科学研究費補助金による研究 (前号未掲載分)

年 度	研究種目	研究種目研究課題及び分担者	代 表 者
2 0 0 2	特定領域研究 (2)	パルス伝播効果とレーザー誘起コヒーレンスを取り入れた量子制御理論の構築	中嶋 隆
	基盤研究 (C) (2)	電子バースタイン波による電子加熱と電流駆動	長崎百伸

受 託 研 究 (※は前号において契約締結日未掲載のため再掲載)

年 度	研 究 題 目	委 託	研究期間	代 表 者
2 0 0 2	複数のサブユニットから成るテラーメイド人工酵素の創成	科学技術振興事業 団	※契約締結日 H15. 3. 31	森井 孝
	低環境負荷エネルギー材料システムの総合開発評価	科学技術振興事業 団	※契約締結日 H14. 10. 31	香山 晃
	超伝導リニアックにおける光電子銃技術に関する調査	日本原子力研究所	※契約締結日 H15. 2. 28	山崎鉄夫
	レーザー誘起蛍光法による空間・時間高分解能電界計測用高効率励起ヘリウム原子線生成に関する研究	日本原子力研究所	※契約締結日 H15. 3. 14	吉川 潔
	メタン/メタノール変換に係わるメタン資化菌酵素の発現と活性に関する研究	(株) 関西新技術 研究所	契約締結日 H15. 3. 31	大久保捷敏

奨 学 寄 付 金

年 度	研 究 題 目	寄 付 者	代 表 者
2 0 0 2	木村研究室への研究助成	(財) 名古屋産業科学研究所	木村晃彦
	核融合炉用フェライト鋼の研究に対する助成金	新日本製鐵株式会社技術開発本部	香山 晃
	エネルギー理工学研究のため	日本食糧株式会社	大久保捷敏

各種講演会の開催状況

エネルギー工学研究所特別講演会

題目：原研における超伝導リニアック駆動自由電子レーザーに現況と将来展望

講演者：峰原英介 博士 日本原子力研究所 関西研究所光量子科学研究センター

自由電子レーザー研究グループグループリーダー

京都大学エネルギー工学研究所 クリーンエネルギー変換研究分野 客員教授

日時：2002年5月31日（木）10：30～

場所：京都大学エネルギー工学研究所 本館2F会議室

講演会

題目：Multichannel approach for the description of ultrafast laser-matter interaction :from the basics to the non-perturbative applications

講演者：Dr. L. A. A. Nikolopoulos (ギリシャ国立電子構造&レーザー研究所)

日時：2002年7月24日（木）15：30～16：30

場所：京都大学エネルギー工学研究所 本館2F会議室

エネルギー工学研究所特別講演会

題目：Prospects for new accelerator-based X-ray sources

講演者：Nikolai Vinokurov 博士

ブドカ原子核物理学研究所（ロシア）研究部リーダー

京都大学エネルギー工学研究所 先進エネルギー評価研究分野 外国人客員教授

日時：2002年9月3日（木）14：00～1600

場所：京都大学エネルギー工学研究所 本館2F会議室

講演会

題目：“IAEA Activities in Humanitarian Demining

講演者：Ulf Rosengard (IAEA (国際原子力機関) 研究員 (オーストリア))

日時：2002年9月6日（金）15：00～17：00

場所：京都大学エネルギー工学研究所 本館2F会議室

京都大学エネルギー理工学研究所教官公募

公募人員：教授 1名 任期 10年（ただし再任可）

所属分野：エネルギー生成研究部門「原子エネルギー研究分野」

研究分野：核融合エネルギー工学分野において、核融合エネルギー実用化に関する基礎研究、応用研究などを社会的連携のもとに推進し、将来この分野において指導的役割を果たすことが期待できる意欲ある研究者

着任時期：採用決定後なるべく早い時期

応募資格：博士の学位を有する者

提出書類：(1)履歴書(2)業績リスト（原著論文、国際集会プロシーディング、学会発表、その他に分類、及び論文別刷があれば添付）(3)研究内容の概要（2千字程度、テーマ別に記載）(4)研究計画書（2千字程度）(5)推薦書（推薦者がある場合）（A4判横書き、履歴書（市販の様式）以外は任意様式）

応募締切：平成14年11月22日（金）（必着）

書類提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学エネルギー理工学研究所 所長 吉川潔

（封筒に「原子エネルギー研究分野 教授応募書類在中」と朱書、郵送の場合は書留とすること、なお、提出された書類は返却しない）

問合せ先：エネルギー生成研究部門 教授 山崎 鉄夫（TEL：0774-38-3420、Fax:0774-38-3426）

Email : yamazaki@iae.kyoto-u.ac.jp

京都大学エネルギー理工学研究所教官公募

公募人員：助手1名 任期7年（再任可）但し（5年1回）可

所属分野：エネルギー利用過程研究部門・分子集合体設計分野

研究分野：エネルギー利用を指向した分子集合体およびシステム、分子集合利用等に関する化学を基盤とした研究。

着任時期：採用決定後できるだけ早い時期

応募資格：博士の学位を有する者或いは取得見込みの者

提出書類：①履歴書②業績リスト（原著論文、国際会議報告等に分類、主要論文別刷り5編、産学官連携、競争的資金等の実績も記入）③研究業績の概要（テーマ別・千字）④着任後の研究計画（千字）⑤推薦書または意見を伺える方二名の氏名と連絡先

応募締切：平成15年1月6日（月）必着

送付先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学エネルギー理工学研究所長 吉川潔

（封筒表に「教官応募書類在中」と朱書、書留にて送付のこと）

問い合わせ：分子集合体設計分野 教授 吉川 暹 電話 0774-38-3502 FAX0774-38-3508

E-mail:s-yoshi@iae.kyoto-u.ac.jp

研究所出版物一覧

- ▶ 京都大学エネルギー理工学研究所年報（年度末発行）
- ▶ 京都大学エネルギー理工学研究所ニューズレター（年3回発行）
- ▶ 京都大学エネルギー理工学研究所リサーチレポート（不定期発行）

94. W. Ang et al., Profiles of Divertr of Plasma in Heliotron J, July 1, 2002

附属エネルギー複合機構研究センター便り

○談話会報告

平成14年度第1回センター談話会

題目：「De NOVO 設計ペプチドを用いた機能性ポリペプチド・タンパク質の構築」

講師：坂本清志

日時：9月17日（火）10:30-11:30

場所：エネルギー理工学研究所本館2F会議室

機能性タンパク質の人工構築およびタンパク質構造機能相関のモデル的解明を目的とした De Novo 設計手法に基づく分子レベルでのポリペプチド・タンパク質高次立体構造構築、機能化についての試みをお話いただきました。

○談話会予告

平成14年度第2回センター談話会

題目：「高温プラズマ中における高時間分解能イオン温度測定器の開発」

講師：小林進二

日時：11月8日（金）10:30-11:30

場所：エネルギー理工学研究所本館2F会議室

小林先生は、プラズマ中のイオン温度を高速で測定することを目的とした検出器の開発にたずさわられました。談話会では、測定手法・開発のポイントを紹介し、大型トカマク装置 JT-60Uにおける初期結果についてお話いただきます。奮ってご参加下さい。

連絡先 〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学エネルギー理工学研究所

センター : 大槻 徹、電話：0774-38-3522, e-mail: otsuki@iae.kyoto-u.ac.jp

: 石橋洋子、電話：0774-38-3530, e-mail: yoko@iae.kyoto-u.ac.jp

京都大学エネルギー理工学研究所ニューズレター

平成14年11月7日発行

編集兼発行人

京都大学エネルギー理工学研究所

代表者 吉川 潔

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

TEL 0774-38-3400 FAX 0774-38-3411

<http://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>